

和歌山東高等学校

実施日時	令和3年11月 5日(金)、 8日(月)、 9日(火)
参加者	生徒531名、教職員50名、地域住民等10名 計591名
実施内容	地震・火災避難訓練、シェイクアウト訓練、防災学習等

ねらい

- 1 生徒の防災への意識を高める。
- 2 郷土の偉人の業績を知る。
- 3 災害発生時において、生徒が自らの命を守るために、主体的な避難行動ができるようにする。

・濱口梧陵顕彰シンポジウムを聞いて、村と人命を救った濱口梧陵は英雄だと思った。そして、このことが海外でも広く伝えられていることに驚いた。

主なプログラム

- 1 地震・火災避難訓練
- 2 地震・津波避難訓練・シェイクアウト訓練
- 3 「世界津波の日」濱口梧陵顕彰シンポジウムWEB視聴

成果と課題

【成果】

- ・近い将来、起こると予測されている南海トラフ地震等の自然災害に向けて、自助、共助についての意識が高まった。
- ・避難場所や避難経路の確認等、日常の備えが必要であることを学んだ。

【課題】

- ・新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、グループワーク等の実践的・体験的な学習ができなかった。
- ・感染防止の観点から、地域の方々と連携した実施が困難であった。しかし、災害時の高校生に寄せる地域の期待は大変大きいので、感染状況を見ながら、可能な限り、地域と連携・協働した防災スクールを実施し、地域社会に貢献できる防災リーダーを育成したい。

概要

- 1 全学年の生徒と教職員が地震及び火災を想定し、グラウンドに避難する訓練を実施した。
- 2 全学年の生徒、教職員、PTA役員等が地震及び津波を想定し、シェイクアウト訓練を行い、校舎上層階に避難する経路を確認した。
- 3 1学年の生徒が「世界津波の日」濱口梧陵顕彰シンポジウムをWEB視聴し、郷土の偉人の業績及び防災に関する研究事例について学習した。

参加者感想文

・和歌山県は今後30年以内に70%の確率で南海トラフ地震が来るといわれています。津波の被害などを想定すると、とても恐ろしいものだなと思っています。私は災害と向き合いながら生活していきたいです。